



## カラタチバナ（唐橘）＜サクラソウ科・ヤブコウジ属＞

日本原産の常緑小低木。東北南部から沖縄に自生または野生化しており個体数は少ない。幹はまっすぐで分枝せず、高さは約 30 ㍎。葉は光沢があり鮮やかな緑色。マンリョウに似るが葉は細長く、長さ 8～20 ㍎、幅 1.5～4 ㍎で無毛。7 月頃に白い小さな花を付け実<sup>み</sup>は 11 月頃に赤く熟す。実は 6～7 ミリの球形で翌年の 4 月頃まで残り、園芸品種も多く鉢植えや庭木に利用される。名は、ある説によると真っ赤な実を付ける姿が「唐<sup>から</sup>」に自生しているミカン科の「橘<sup>たちばな</sup>」に似ていた事から。別名ヒャクリョウ。・・・

▼近くの林の中で、点在するヤブコウジに交じり、ひときわ美しい赤い実を付けた植物を見つけた。調べると、それはカラタチバナだった。▼昔から、マンリョウ（万両）、センリョウ（千両）、カラタチバナ（百両）、ヤブコウジ（十両）は縁起の良い植物に数えられている。▼縁起物のカラタチバナに、この時期偶然にも出会い、嬉しかった。小さいながら凛としてすくと立っている姿が素敵に思えた。眺めていると、なんだか力が湧いて来るような、そんな思いがした。

～佐伯区湯来町 2020・12月～